

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

## ◆西山語録

### 「返事の意味」

返事は、連携プレーのためのコミュニケーションの一つであると同時に、連携して貰っている事への感謝の気持ちを伝える事でもある。



※この画像は生成AIにより生成されました。

## ◆ベトナム大学との連携でインターンシップ、本格的に始動

BSOが取り組んでいる高度人材育成事業では、ベトナムの大学と連携し、早期からの人材育成に力を入れています。この連携の一環として、本格的にインターンシッププログラムを始動しています。このプログラムでは、学生たちが日本のモノづくりの現場を知るとともに、実際の日本の働き方を体感することを目指しています。先日、新たに1大学と提携を締結し、これで3大学4学科になりました。今後、さらに連携する大学を増やし、ベトナムだけではなく、他の国々の大学とも連携を広げていきます。



《新たなベトナムの大学と連携を締》

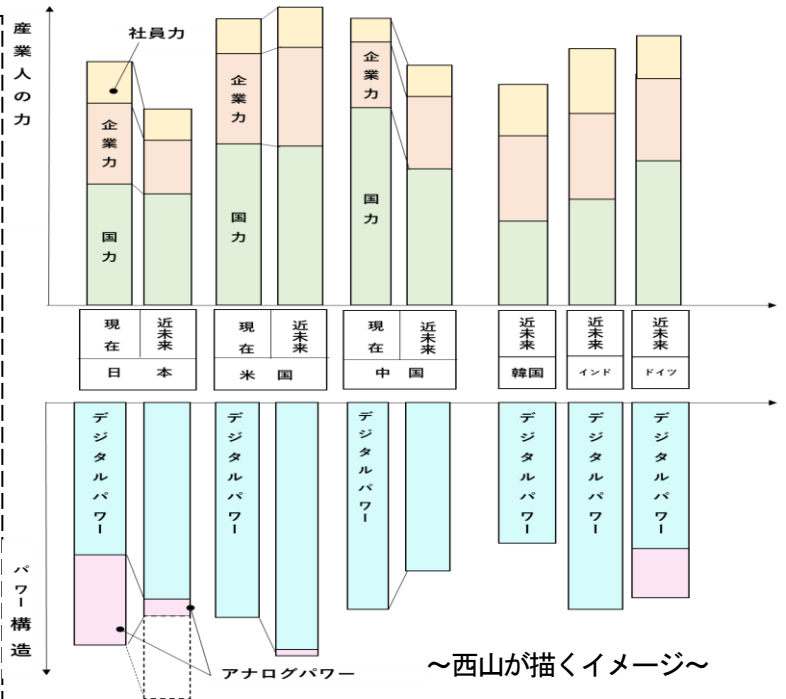
## ◆日本の産業力の可能性

### 《国力、企業力、社員力

#### からみた産業パワー》

近年、日本の国力、企業力、社員力（個人の力）は全般的に低下している。一方、米国では国力が横ばいの傾向ではあるが、企業力や社員力のレベルは少しずつ向上していく。米国の産業パワーは今後ますます拡大し、日本とは逆の現象が進んでいくことが予想される。中国は現在、国力は大きいものの、将来的には低下する可能性がある。しかし、その一方で企業力が強化され、政府への依存から脱却する動きが見られる。この結果、社員力も強化されていくだろう。

産業パワーを国力、企業力、社員力の3つで捉えると日本と他国との格差は広がる一方であり、日本の将来を悲観的に捉えざるを得ない状況である。しかし、アナログパワーとデジタルパワーで産業パワーを捉えると日本産業には大きな可能性がある。



～西山が描くイメージ～

### 《日本の産業価値観の転換》

これからの時代、日本をはじめとする世界で、アナログパワーは徐々に弱まり、デジタルパワーが産業の中心となっていこう。しかし、日本のモノづくりにおけるアナログパワーは、数値化して評価することが難しいものの、世界から高く評価されていることは事実である。この評価を基に、日本がアナログパワーをさらに強化することができれば、世界一の産業パワーを発揮することも不可能ではないのではないかと。

日本人は、アナログの付加価値を対価として主張することが苦手であるが、まずこの点を改善しなければ、日本の企業は弱体化の方向に進む可能性がある。我々自身が世界から求められる日本のモノづくりを再評価し、日本の生産活動の基盤を「良品廉価」から「高付加価値」へと転換させる必要がある。

日本はアナログパワーを強化し、デジタルパワーとの融合を図ることで、新たな競争力を生み出し、世界における地位を再び高めることができる可能性を秘めている。

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ